

くらしと協同の研究所

2025年総会記念シンポジウムのご案内

本案内

- ◆日 程:7月12日(土) 13:00~17:20 総会記念シンポジウム・特別講演
(会場参加とオンライン参加の開催)
7月13日(日) 9:30~12:30 分科会(リモート開催)
- ◆会 場:京都府民総合交流プラザ 京都テルサ東館
- ◆申込み締切:6月23日(月)

「一人ひとりが輝き、 共生する職場づくりをどう進めるか」

(開催趣旨)

昨年(2024年)の総会記念シンポジウムでは、「生協・協同組合における人づくり-若者に協同の価値をどう伝え、魅力ある職場をどう作るか」をテーマに、とくに現代の若者に焦点をあてて、協同を学ぶインターンシップ、定着に向けた人材育成や事業における働き方の問題を取り上げました。

そこで今回は、昨年の議論も踏まえながら、ダイバーシティ(多様性)やインクルージョン(包括・受容)が求められる時代のなかで、多様な人たちが「共生する場」としての生協における職場づくりについて考えます。ここで「共生する場」とは、多彩な人たちが、お互いを認め合い・補い合い、経営理念を共有し、経営理念と日常業務とが結びついている場として捉えます。

シンポジウムでは、多様な働き方や人間尊重などを柱とする「人づくり中期方針」の実践や理念の浸透、女性活躍推進プログラムや健康で働き続けられる職場づくりに取り組む二つの生協と、防災対策や子ども食堂、能登復興支援などを通じた人材育成をめざしながら、京都府産九条ねぎの生産・販売を展開する株式会社を取り上げます。

また、本年は2012年に続いて国連が定める国際協同組合年であることから、アイデンティティをテーマとした特別講演を開催するとともに、協同労働・労協研究会からの報告と、この間継続している生協の商品・取引先に関する二つの分科会を設定します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

本研究所 運営委員長 北川 太一(摂南大学)

主催:くらしと協同の研究所

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町258コープ御所南ビル4F
TEL:075-256-3335 FAX:075-211-5037
E-mail : kki@kurashitokyo.jp

7月12日(土) 13:00～17:20 シンポジウム:京都テルサ 東館2Fセミナー室

- 開会あいさつ 13:00～13:10
○総会記念シンポジウム 13:10～16:20
1. コーディネーター解題 13:10～13:30
細川 孝 氏(龍谷大学:本研究所企画委員)
2. 実践報告 13:30～15:00
報告1「理念が浸透し、多様な人が活躍する職場を目指して
ー人づくり方針とその実践ー」
黒田 直義 氏
(生活協同組合コープこうべ 常勤理事 人事・総務統轄 統轄本部長)
報告2「誰もが健康で働き続けられる職場づくり
ーワークライフバランスからワークインバランスへー」
久木 由人 氏(福井県民生活協同組合 管理部・DX推進部 部長)
報告3「地域への貢献を通じて、人を育て組織をつくる」
宮川 光太郎 氏(こと京都株式会社/こと京野菜株式会社 番頭執行役員)
3. コメント&全体討論 15:10～16:20
コメンテーター
山野 薫 氏(京都橘大学:本研究所理事)
木下 和紗 氏(摂南大学:本研究所研究員)
- 2025国際協同組合年・特別講演 16:20～17:10
テーマ「協同組合アイデンティティ原則の改定をめぐって
ー生協の実践にどう結びつけるかー」
比嘉 政浩 氏(日本協同組合連携機構(JCA) 代表理事専務)
- ※第33回総会 17:40～18:10

くらしと協同の研究所への入会のご案内

くらしと協同の研究所は、個人会員と団体会員によって構成されており、常時会員を募集しております。詳細については、以下のQRコード・URLに記載しておりますので、ぜひご関心をお持ちの方にお声掛け下さい。

入会のご案内: <http://www.kurashitokyo.jp/entry/>



- 会員になると、以下のご案内・活動情報等をお送りさせていただきます。
 - ・季刊『くらしと協同』(年4回発刊)が届けられます。
 - ・当研究所主催のシンポジウムやセミナー等の報告冊子等が届けられます。
 - ・当研究所および各研究会の発行物のご案内が届けられます。
 - ・公開の研究企画、講演会等のご案内されます。
 - ・総会に参加し、研究所の活動や運営について発言・提案や自主研究会の開設を行うことができます。

7月13日(日) 9:30~12:30 分科会:リモート開催

第1分科会 「労働者協同組合法制化後の協同労働・労協の展開 ～地域のニーズをどのように事業として自分たちで解決するか～」

労働者協同組合法の制定を契機とし、「協同労働(自ら出資し、意見を出し合い、事業をおこなう働き方)」が改めて着目されると同時に、持続可能な地域社会や経済を実現するための担い手として労働者協同組合への期待も高まっています。私たち「協同労働・労協研究会」は、法制化後に新たに誕生した労働者協同組合や、労働者協同組合の設立支援をおこなう自治体、地域づくりにつながる協同労働のネットワークを築こうとしている労働者協同組合などへの調査を通じ、協同労働や労働者協同組合のリアルなあり様や魅力、課題などについて検討してきました。

本分科会は、研究会の中間報告として位置づけ、協同労働という働き方や労働者協同組合の取組みの意義や可能性、そして地域経済や社会へのインパクトについて議論します。

コーディネーター 下門 直人 氏(京都橘大学:本研究所理事)

報告1:「労働者協同組合における協同性～組合員の関係性と経営参加の保障～」

鈴木 力 氏(岐阜大学:本研究所研究員)

報告2:「協同労働・労協における経済性と社会性の両立」

:中小企業・アントレプレナーシップ研究を手がかりとして」

木下 和紗 氏(摂南大学:本研究所研究員)

報告3:「こども編集部の設立とこれまでの取り組み」

金井 智美 氏(労働者協同組合こども編集部 代表理事)

報告へのコメント

高橋 弘幸 氏(労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 関西事業本部 本部長)

上村 俊雄 氏(労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 但馬地域福祉事業所)

第2分科会 「地域の生産者・企業と、ともに歩むために」 ～地域における生協の可能性～

昨年は、生協と地域の生産者・企業の密接な連携に基づく商品を取り上げ、その意義や効果を考えることをテーマにした分科会を開催し、多くの参加者から評価をいただきました。

その後の世界と日本の情勢を見てみると、小売業界では大手コンビニチェーンの外資買収が話題となり、日本で30年ぶりに進むインフレは、消費者の日々の暮らしへの関心をいっそう高めています。グローバルかつ価格面でも競争の厳しさが高まる中、地域で事業を営む生協として、地域の生産者・企業と連携し、これを支えることも生協に期待されている役割であるように思われます。

本分科会は昨年に引き続き、地域生協が地域の生産者・企業との連携を通じて調達・開発した商品を事例にしながら、各地域の生協と生産者・企業双方にとって、こうした取組の持つ意義を考え、地域における生協の可能性という論点について議論していきます。

コーディネーター 加賀美 太記 氏(阪南大学:本研究所常任理事)

報告1:樽井 雅美 氏(社会福祉法人青葉仁会 サステナブル事業部室長)

盛口 篤 氏(市民生活協同組合ならコープ 専務理事)

報告2:山崎 太志 氏(明神水産株式会社 経営企画本部副部長 第一営業部部長)

佐竹 一夫 氏(こうち生活協同組合 理事長)

報告3:倉村 文信 氏(株式会社ジェイエイフーズみやざき 業務部部長)

平島 俊一郎 氏(生活協同組合コープみやざき 商品本部本部長 常勤理事)